対馬が目指す海洋保護区

対馬の海洋保護区とは、豊かな海を子どもたちに残していくために、漁業者、市民、行政が一体となり、対馬沿岸の海洋生態系の豊かさと重要性を守っていくエリアです。

漁業活動を禁止するエリアではありません

漁業を続けながら海の健康状態をチェックし、必要に応じて適切に管理していくエリアです。

旋網や底曳網の操業を禁止するエリアではありません

まずは自分たちにできることをしっかりと行い、旋網や底曳網などの島外の漁業者にも協力を求めながら、共に管理していくエリアです。

海洋保護区で目指すこと

必要性を知ってもらう

対馬の海が日本の水産業を支える重要な海域であることを日本や海外の消費者に知ってもらい、保護する必要性を訴えます。

資源量や生態に合わせて、きめ細やかな資源管理計画を策定する

管理する範囲を定めて、きちんと資源量の調査を行い、適切な管理方法を模索していきます。

この島で漁業で生きていけるという状況を作る

漁業は対馬の基幹産業です。資源管理を行いながら「稼げる漁業」の仕組みを考え、安心して暮らせる島をつくります。

問い合わせ先：対馬市農林水産部水産課海洋資源保全室
電話（代表）　０９２０－５３－６１１１

制作：一般社団法人 MIT / デザイン・イラスト：松野 由起子 / 写真：吉野 元

みんなでつくろう
対馬に海洋保護区を！

漁師は海の守り人。
海の変化にいち早く気づき、豊かな海を守っていくのは、俺たちの仕事！

家族が食べている魚。
どこで誰がどんな風に捕っているのか、ちゃんと知らなきゃね！

対馬の海のこと、
もっと知りたい！

豊かな海に囲まれた対馬にとって、漁業は暮らしを支える大事な生業です。
海の生態系を守り、水産資源を次の世代に残すためには、漁師だけでなく、海からの恩恵を受けている全ての人々が、協働で話し合うことが大切です。
資源の減少や環境の変化など、多くの危機を迎えている対馬の海を守ることが、元気な漁業を育てる事につながります。
みんなで作りましょう！対馬版オリジナル海洋保護区を！

長崎県対馬市

私たちに恵みをもたらす対馬の海

対馬の海は水産資源の宝庫

対馬近海では、年間を通じて、さまざまな海産物が漁獲されています。対馬暖流がもたらす豊かな漁場。その中心に位置している対馬は、漁場が近く、日帰りで漁業ができます。家族と共に過ごす時間を大切にしながら漁業ができる環境を、子どもたちに残していきたいものです。

【知ってた？対馬の“ 日本一”】

・アナゴの生産量日本一！

・ヒジキの生産量日本一！

・ヒジキの長さ日本一！（鰐浦地区）

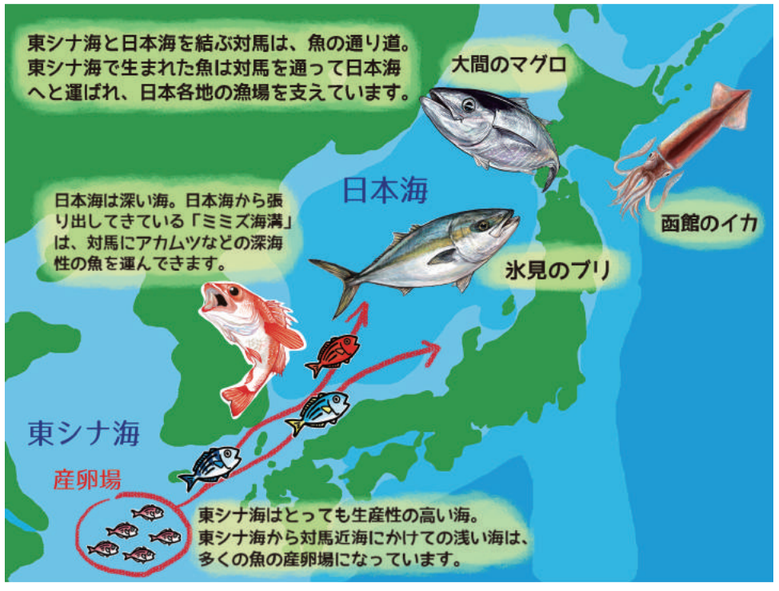
・漁港数日本一！（全国の市町村の中でも一番多い）

※長崎県が漁獲量日本一！という魚介類はたくさんあります。
いさき（全国の漁獲量の 31%）、まあじ（27%）、あまだい類（27%）、ひじき（26%）、とびうお類（24%）、むろあじ（23%）、さざえ（21%）、さば類（20%）、あなご（15%）、たい類（15%）、さわら（13%）、ぶり類（12%）

出典：漁業・養殖業生産統計年報（平成 15 年、平成 17 年、平成 20 年）

対馬は日本の水産業を支えている心臓部

対馬の海はたくさんの魚たちの通り道。産卵の場所にもなっています。
対馬の海は、私たちの生活だけではなく、日本の海を支えているのです。



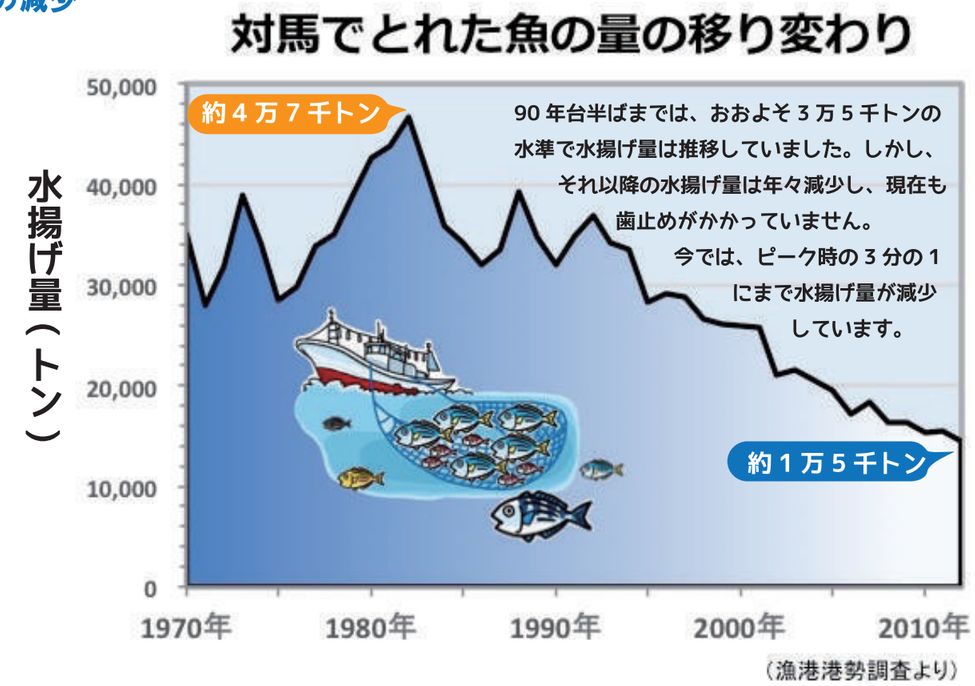
対馬渦が作る豊かな海

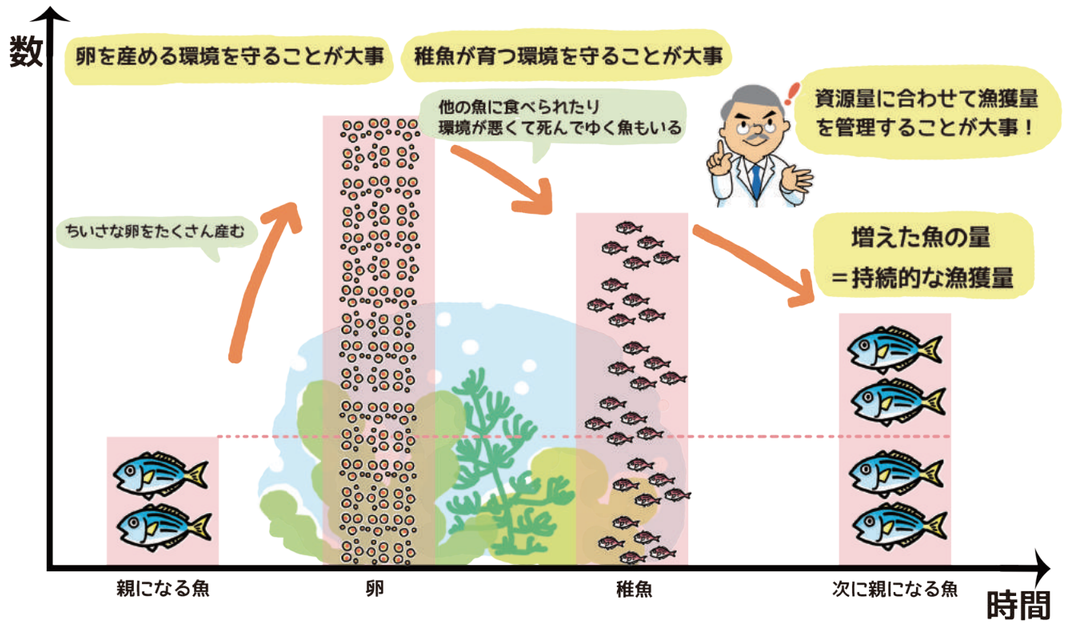
対馬の海には、魚たちの餌になる植物プランクトンが増える仕組みがあります。

対馬暖流が島にぶつかることによって渦ができます。この渦が、植物プランクトンの増殖に必要な栄養を、海底から巻き上げてくれるのです。

対馬の海に迫る危機

漁獲量の減少



魚は増える資源

魚は本来「増える」資源です。たとえば、雌雄１尾ずつの魚が生んだ子供が成長して、雌雄２尾ずつ生き残れば、資源は倍になります。増えた分だけ漁獲していれば、海からの恩恵を受け続けることができるのです。魚が増え続ける環境を守るためには、産卵できる環境や稚魚が育つ環境の保護、そして、資源量に合わせた漁獲量の管理が必要です。海の恵みを利用する私たちには、知恵と行動力が求められているのです。